

駒場松桜会会報

第90号

2012年4月1日発行

(財)駒場松桜会
都立駒場高校同窓会

〒153-0044
目黒区大橋2-18-1
都立駒場高校内

TEL/FAX

03-3466-7579

携帯電話からも住所変更ができます。



住所変更専用
QRコード

歴史の流れの中で

加藤 登紀子 (駒14)

内外での歌手活動に加え、千葉県鴨川市の農園「鴨川自然王国」を拠点とし、循環型社会の実現に向けて活動を続ける加藤登紀子さんにご寄稿いただきました。駒場高校時代の日々がどのように現在に繋がっているのか、活力溢れる一節一節をお楽しみください。



私が駒場高校に在籍していたのは、1959年4月から62年3月。考えてみると日本の歴史の激動時代。

中学を卒業した時、先生に「君はきつとまだ眠っているのだ。きつとこれから目覚めて行くのだらう」と書かれたように、高校に入ったばかりの頃の私は、ほんやりした、自分でも嫌になっちゃうほど、自信のない弱気な少女だった。でも、「君はまだ眠っているんだ」というコメントがぐさりと胸にささっていたことが、もしかしたらきっかけだったのか、高校入学からの私はすこく発奮した。

KHK駒場放送局のアナウンサーになり、朝、昼の校内放送の送り手として、NHKから本格的な先生を呼んで正式の訓練も受けた。

夏には、放送コンテストに朗読で出場。まあ、この時には張り切り過ぎて声を潰してしまつて20位と言う成績だったけれど、人の前に出るのが苦手だった私が、曲がりなりにも人の前で表現することを知つた大切な出発点となつた。

そして高校2年。日米安保改訂反対の波が日本を揺るがした時、私はその駒場放送局の部活のメンバーたちと連日大論争し、デモにも参加することになる。

6月15日、樺美智子さんが国会構内で殺された日も私は国会の周りにいた。そして眠れぬ夜が明けると真っ先にKHKのスタジオに行き、この出来事を朝の放送で流すための準備をしたのだった。

その時のKHK局長が、その後、黒テント劇場のリーダーとして演劇界を引っ張っていった佐藤信。彼もまたデモの中に入つていて、その朝青ざめた表情でスタジオに現れた。

彼とはその後も原水禁世界大会に高校生代表を送ろうと、構内で学生大会を開くために校則を変えようという大仕掛けなムーブメントを起こすなど、もういっぱしの大学生みたいな気分です先生たちを向こうに回して渡り合つたのだった。

駒場高校の先生はみな、それ

ある時、清水先生にこう質問したことがあつた。

「授業では、何時代はこういう政治、こういう社会と教わるけど、何時代から何時代への変わり目はどうなっているんですか」と。

その時の先生の答えがこうだつた。

「いい質問だ。まさにそれが歴史学というものだ。でも高校では教えない。それは君が大学に入つてやりなさい。」

それで私は大学に行つて歴史



高校1年 放送コンテスト

をちよつと面白がつて見ていたよう、みんな優しかったなあ。

特に私は歴史が好きだったの、日本史の菱刈先生や世界史の清水先生の大ファンだった。

授業は発表形式で生徒たち自身がテーマを選び、問題提起し、自分で調べて来てみんなに発表するという大胆なものですごく楽しかった。

25歳でやつと世に出た自作曲「ひとり寝の子守唄」も、森繁久彌さんとの決定的な出逢いとなつた「知床旅情」も、抜き難くあの時代と繋がっている。宮崎駿さんの「紅の豚」で歌つた「さくらんぼの実る頃」はパリコミューンの歌だし、「百万本のバラ」は、ソ連が自由になるうとする時代を象徴する歌だ。

そしてその強い想いと運命を背負つた歌は、いつまでもその生命力を失わない。

人生は、さながらミルフィーユだ。固いパイとやわらかなクリーム。いろんな節目をパイにして、いく層にもそれを重ねて行く。その意味で2011年は、日本中の人々が共通のパイを自分の人生におくことになつたのではないだろうか。生きるという

事に真剣に向き合い、日本の未来に責任を感じ、何とかしなければと、思わず歯を食いしばった。

それから1年経って、たくさんの宿題をやり残したまま、また新しい1年に踏み込んだ。今年はどうなるのだろうか。

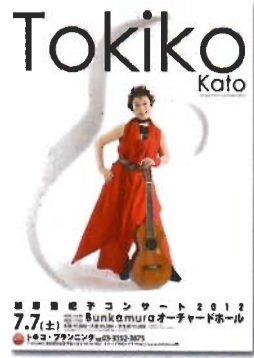
去年の3月11日、震災の直後に作った「今どこにいますか」、そして、これからのことへの祈りを込めた「命結—ぬちゆい」という歌も生まれた。

秋に出したアルバム「命結—ぬちゆい」には、娘のYaeとのデュエットで「アメージング・グレイス」も入れた。

去年の「ほろ酔いコンサート」ではたくさんの方の敬愛する人たちがゲスト出演。その対話から一



命結—ぬちゆい



オーチャートホールコンサート

戦争という時代をほんの少し知ってる私たちの世代。めくるめく変化を担い、創り上げてきた世代。今の原発頼みの文明の始まりから失敗までを見てきた世代。

これから生きる人たちのために、何が出来るのか。今年はその答えを見つけなければならぬと思う。



著書「命を結ぶ」

冊の本が出来た。多難な時代を超え生きぬくためのゆつたりとした確かな土台を持てるよう、今年も、歌や言葉、そして出逢いを重ねて行きたいと思う。

1943年ハルビン生まれ。1965年東大在学中に第2回日本アマチュアシャンソンコンクールに優勝し歌手デビュー。

同窓生 spirit



上田光子(第三26) 元理事長を偲んで 前理事長 中江千恵(駒4)

2002年(平成14年)母校創立百周年を迎え、松桜会主催で5月にパーティーを開きました。隣のお席の上田様から「私は90歳よ」と聞き、びっくりしてしまった時のことを良く覚えています。とてもお元気な先輩、殊にお気持ちがお若いのです。現代に順応する気迫があり、20年以上も後輩の私の方が古いこともありました。

上田理事長の時に、仰光寮を残して欲しいという皆様の署名を持って都庁に行き、当時の鈴木都知事に直接お渡ししました。小杉明子(5代目理事長)様と私が一緒にいたしました。松桜会にとっては仰光寮の一步前進で、大きなことだったと思います。上田様もずっと仰光寮のことは気にいらつしやいました。

永遠にお元気でいらつしやるような気がしていましたら、お嬢様からのお電話で上田様の計報、私にはなかなか理解できませんでした。ワインをおいしそうに飲まれる洒落たお姿が浮かびました。30年前、私が仰光寮で初めてお目にかかった時は、第三高女の先輩方がざらりと並んでいらした中のお一人で、長い間会計を担当された重鎮でいらつしやいました。

2011年9月 ニューアルバム「命結—ぬちゆい」をリリース。被災地でのチャリティーコンサートなど精力的に活動を続けています。2012年7月7日 オーチャートホールコンサート開催。URL <http://www.tokiko.com>

早間 玲子氏(駒4)が旭日小綬章受章!

会報79号トップページにご寄稿頂いた在仏の建築家、早間玲子氏が、フランスにおける建築家としてのご活躍や在仏日本人会へのご活躍などを通じた長年にわたる日仏交流の推進及び在留邦人への福祉功労が高く評価され、この度の受章となりました。2月28日に在仏日本大使公邸にて、100人余りの日仏ご来賓がお集まりの中、伝達式がありました。

同窓生が松桜会の理事長に就任するようになって第4代目の理事長になられました。威圧的なところが無く、穏やかな理事長でした。毎週月曜日、仰光寮でしっかり事務局の仕事なさっているお姿は元気の源であつたかもしれません。

(平成23年10月3日ご逝去)

せんせ.

第9回



略歴
 都立竹早高校 卒
 東京学芸大学教育学部書道科 卒
 都立駒場、荻窪、鎌田、美原、新宿山吹高校勤務を経て
 再び駒場高校へ
 本年3月末に退職

齋藤いづみ先生を訪ねて

(駒場高校書道準備室訪問)

齋藤先生は駒場で何年教えていらっしやったのですか？

昭和47年に着任し、平成9年3月まで駒場にお世話になりました。その間担任として5回卒業生を送り出しました。その後4校を経て平成21年4月に再び駒場へ異動となり、非常勤教員(嘱託)として勤めております。

高校教員として最初と最後を駒場高校で過ごすことができたのは幸せなことです。

再び駒場高校に戻られて

駒場は変わりましたか？

時の流れと共に変化していくことはあると思いますが、駒場の精神のようなものは変わっていない気がします。駒場には駒場にだけ流れている穏やかな時間みたいなものがあるって、卒業生の皆さんが懐かしむその雰囲気は変わらないと思います。

毛筆で作品を作る以外に木簡や篆刻、板刻したものを拓本にしたりと面白い授業でした。

多様な題材の中から一つでも好きなもの、興味の惹かれるものを見つけてほしいと思っていました。また、狭い書道観に囚われず、経験を通して美意識を

広げられると考えました。

ものを創り出すには積極的な姿勢が必要です。生徒は作品を生み出すまでに悩み、工夫し、推敲を重ねます。その結果、思い描いた通りの作品が出来た時の喜びの表情は何度見ても嬉しいものです。

「いいものを沢山ご覧下さい。」授業でのこの言葉を受け止めてくれた生徒のいたこと、その後仕事や趣味に生かしている、と伝えてくれる卒業生。これも嬉しいことの一つです。

これからどんなことをして過ごしたいですか？

各地の美術館や博物館巡りをしたいですね。最近では趣向を凝らした展示が増えていると聞きます。面白いものと出会えるのでは、と期待しています。

駒場に戻ってから卒業生とお会いする機会が増えました。次回はどうなお話が増えるかと楽しみにしています。

インタビュー

三好達雄 (駒31)
 大野陽子 (駒31)
 (旧姓 鈴木)

新入会員から

駒64-4 清水 優生



今振り返ってみると本当にあっという間に過ぎていった3年間。私にとってはとても貴重で中身の濃い3年間でした。

駒場高校での生活は決して楽なものではありませんでした。普段の授業は難しいことばかりで、さらに私は最も部員数の多いサッカー部に入っており、当然忙しい毎日でした。けれど、部活動の皆と顔を合わせる度に自然と楽しい気持ちになり、勉強も部活動も両方頑張ることができました。今思えば私が勉強と部活動の両立を3年間続けることができたのは、仲間達と共有した楽しい時間のおかげだと思います。

駒場高校では本当に数多くの経験をすることができました。その一つ一つの思い出や経験を一生忘れることはないし、そういった経験が今後いつまでも私の事を支えてくれることを信じています。

駒64-5 西宮 育美



私が駒場で過ごしたのは、たった3年という短い時間でした。でも、この3年間でこの駒場高校で過ごすことができて本当に良かった、今思います。

振り返ると、駒場での日々は毎日が充実していて、あっという間に過ぎていきました。体育祭や都駒祭などの行事

を通して、駒場の「ホーム」の強さを実感しました。特に、3年生の時の都駒祭でのクラ入劇は、ホームの40人全員がひとつになって成功させることができました。一生忘れられない思い出です。

そして、駒64の仲間には感謝の気持ちでいっぱいです。皆がいたからこそ、私の高校生活はかけがえのない幸せな時間になりました。

高校時代を駒場で過ごしたということとは私の誇りです。3年間を通して身につけたものと素敵な思い出たちを胸に、卒業してからも頑張っていきたいと思えます。

駒64-保 矢澤 紗瑛



「普通に過ごしていたら、3年間楽しすぎてすぐに終わってしまう」と入学してすぐ思ったことを今でも覚えていています。しかし、思った通り。駒場高校での時間は本当にあっという間で、そんな駒場高校の生活はどうしたら悔いが残らず卒業していいのか考えたことがありません。私は何よりも部活である柔道にだけは悔いを残したくないと思ったので、全国出場という目標を必ず達成しようと思っていました。しかし、春の全国選手権の切符を手にし、国体出場することはできたものの、高校生として最高の全国大会であるインターハイに出場することは叶いませんでした。でも今は、反省は沢山あっても後悔はしていません。それはやはり大好きな駒場の名を背負い、日々本気で柔道と向き合い、全力で練習に打ち込むことができたからです。

駒場高校では、本気で何かに挑む充実を、身を持って体験しました。大学でも全てに本気で頑張ります。



駒場松桜会 地方支部から

京都支部

佐藤久子(駒5)

松桜会京都支部では毎年夏、近江神宮で行われる百人一首全国大会に出場なさる後輩の皆さんを、京都駅にお出迎えして激励するのを楽しみにしています。百人一首部の皆さん、今年の調子はどうですか？待っていますよ！

同窓会例会は年一回、秋に開いています。昨年は10月1日に11人が集まって、懐かしい話題、ホットな情報入り乱れて、時間を忘れて盛り上がりました。

残念ながら出席してくださる方がだんだんと減っております。関西地区にお住まいの松桜会会員の皆さま、どうぞ京都支部にお入りくださいませんか。うつくしい東

京山の手こたばでのおしゃべりも楽しいですよ。



075-882-0926
 佐藤久子までご連絡をお待ちしています。

月16日(土)
 14時30分
 未成年2,000円)
 4)は無料です
 いただけますが、
 で、会報に同封
 みいただけます
 になります。

**会場：グランドアーク半蔵門
 4階大宴会場「富士」**

東京都千代田区集町1-1
 TEL 03-3288-0111

○地下鉄

半蔵門線「半蔵門駅」1番出口より徒歩5分
 有楽町線「麴町駅」1番出口より徒歩15分

速報！ご出席予定の先生方 (50音順)

- 磯村克夫先生(社会) 榎木茂義先生(国語)
 小澤 猛先生(数学) 小泉晴一先生(理科)
 多胡忠治先生(理科) 田辺仁士先生(数学)
 谷口 聡先生(英語) 土田敏裕先生(数学)
 柳久美子先生(保体) 吉田弘安先生(理科)

(現在も順次お伺い中です)

★駒場高校 校内見学ツアー★

本校110周年を記念し、「同窓の集い」終了後に、バスをチャーターしての校内見学を計画しています。返信葉書に、ご参加の有無をご記入下さい！(参加人数によっては、若い方々には電車で移動していただくこととなりますが、ご了承ください。)



○都バス

JR四谷駅麴町口を出て、道路を挟み上智大学が見える所にバス停あり。「晴海埠頭」または「三宅坂」行きに乗車。バス停「半蔵門」で下車。約6m戻り、信号を渡り直進。突き当たりを左折。

都バスの時刻(土曜日)	晴海埠頭行き	三宅坂行き
四谷駅前	12:22 13:25	12:43 13:42

駒44 駒44のみなさんへ

中島 洋介(駒44)



今年、平成元年に入学した私たち駒44の卒業20年、母校は創立110年を迎えました。この節目の年に開かれる「同窓の集い」を、お世話になった先生方や、学年全体でホームルームや部活など様々な仲間たちと集まる機会にしたいと思います。

駒44は、駒24・34の先輩方と共に今年の「同窓の集い」の幹事学年をつとめますが、久しぶりに再会する顔を探しに、まずは気軽に参加してみてください。卒業から時間がたつと、連絡を取り合うメンバーも狭まったりしがちですが、これをきっかけに学年会やクラス会など繋ぎの輪がさらに広がれば嬉しい限りです。

今から6月のカレンダーに「同窓の集い」を書き込んで、ご参加お待ちしております！

松桜会チャリティコンサート

、東京オペラシティリサイタルホールにて、森島英子さん(駒22)をお迎えしチャリティコンサートが開催されました。

な黒のノースリーブドレスの森島さんによるモーツァルトの「キラキラ星」の変奏曲で始まり、温かく深く心にしみいるピアノの音が会場を包み込みます。輔さん(バリトン)と湯浅桃子さん(ソプラノ)が衣して芝居っ気たっぷりに「フィガロの結婚」から「恋ご存知の貴女方」「もう飛ぶまいぞ愛の蝶々」を歌われ、まれました。

奏ピアニスト、オペラのコレペティートルとして有名ですが、まだ小さい時にご家庭で家族のアンサンブルられたことがきっかけのひとつだったそうです。小さな曲、シューベルトの「菩提樹」「魔王」を大山さんさいました。大山さんの「魔王」は登場人物それぞれ力があり、どきどきしながら聴きました。湯浅さんはの鎮魂の思いをシューベルトの「アヴェ・マリア」しました。柔らかに豊かな高音によく合うピーチ色も素敵でした。

歌曲、オペラのアリアなど、さまざまな曲を堪能し心温まるピアノとゲストの歌に支えられ、私たちもそしてちょっと気持ちよく?)「ふるさと」を合唱し、ていたいコンサートもお開きとなりました。



都駒祭参加報告

毎年、母校学園祭の折に仰光寮を広く一般の方に公開、302号教室では「お茶処」を設置し、松桜会をアピールしました。

今年、仰光寮で松桜会講座「金接」受講生の作品展示、302号教室では今年の「号外」(駒6羽島知之氏提供)の展示。両会場とも連日盛況で、仰光寮には510名、302号教室は1,112名の見学者がありました。見学された方の中には「仰光寮を末永く保存して欲しい」というご意見を下さる方もありました。



「金接」展示

母校110周年記念「同窓の集い」 参加することに意義あり!!

今年オリンピックイヤー、7月末からロンドンで開催されます。オリンピック精神を表す有名な言葉である「オリンピックで重要なことは勝つことより、参加することである」は1908年の第4回ロンドン大会から提唱されました。駒場高校は今年で110周年を迎えます。オリンピック精神に学んで「同窓の集い」にまずは参加しましょう。母校見学会も復活します。

今年の幹事学年は駒24、34、44の皆さんです。

日時：平成24年6月
受付：11時30分～
同窓の集い：12時～
会費：5,000円(送料別)
新入会員(駒6)

当日受付でもお支払いの
混雑が予想されますので
の振込用紙にてお振込
と助かります。
なお、先生方はご招待

駒24 駒24！参集してください！

中西 千可子 (駒24)

ひょんなことから、昨年の「同窓の集い」に出席したところ、府立第三の大先輩の方々から、駒場を卒業したばかりの若者まで、実に様々な年代が集結する同窓会は、思いの外楽しいものでした。思い返してみれば、我々は同期会を大切に、大切に育ててきましたが、「同窓」の楽しさに気づくチャンスも、少し無駄にしてきたのかもしれない。今年、110周年を迎える駒場の先輩・後輩達との絆を見つめ直すのも意味のあることだと感じました。さらに折しも、今年、駒24は、駒34、駒44と共に、10年に1度の同窓会幹事学年です。



一人でも多く参集していただけるように、終了後、各クラス会も同じ建物で開催するというのもいいですね。盛会にするために、みんなの力を貸してください！

駒34 駒34の皆さま

杉山 安伸 (駒34)

皆様お元気でしょうか。

我々駒34では、2007年を初回に、2年ごとに3回の学年同窓会を開催しました。

それぞれ70-90人の同窓生が集い、盛大で楽しい会となりました。

20数年ぶりの再会に、初めは“あれ、誰だっけ”と思いつつも、ふっとした瞬間から“あーそうだ！”と懐かしさがこみあげ、あちらこちらで歓声が上がりました。

2012年度の「同窓の集い」は駒34が幹事学年です。今まで同窓会に参加された方、今回が初めての方、どうぞ「同窓の集い」に参加頂き、皆様との再会を楽しみましょう。

また諸先輩、後輩の皆さんとの交流も大変楽しみにしております。

沢山の方々の参加をお待ちしております。では6月にお会いしましょう！



●コチロン合宿のお知らせ

日時 10月2日(火)～3日(水)
場所 国立女性教育会館
(0493-62-6723)

*詳細は次号でお知らせします

●コチロンを踊る会

会場 生徒ホール
(変更の場合は掲示します)
日時 4、5、6、7月
毎月第3火曜日
月1回土曜日
午後2時～4時



コチロン合宿

●第13回コチロン合宿

平成23年10月4日～5日、埼玉県嵐山町にある国立女性教育会館にて催した毎年恒例の合宿に、第三33から駒24まで23名の同窓生が集いました。

体育館での練習は初日の午後と2日目の午前に行われ、参加者は中島和子さん(駒9)のご指導で気品と優雅さを目指して踊り込みました。夜の食堂での懇親会では学生時代の思い出話や近況報告などに花が咲き、ラウンジに移動後は合唱で楽しいひと時を過ごしました。

教育会館は東京ドーム3倍程の自然豊かな敷地にあり、充実した施設を備えています。体育館へ下る小径には樹齢を重ねた金木犀が香を放っていました。

次回「松桜会コンサート」のお知らせ

平成24年12月1日(土)14時から東京オペラシティリサイタルホールでシャンソン歌手の友部裕子さん(駒22)のリサイタルを予定しています。どうぞご期待下さい。



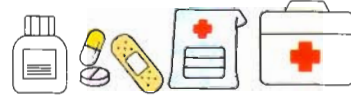
2011年度

2月25日(土)で駒場松桜会が110周年を迎えます。まず、すてきなテーマによる120分ゲストの大山由美子さんの演奏も雰囲気を出すがどんなものか会場も笑いに包まれます。森島さんは何でいらっしゃるに楽しさを感じたいころの思い出と演奏してくださるの歌い分けに東日本大震災に込めて歌われるドレスもとてもピアノ独奏、たあと、最後の心をひとつにいつまでも聴

放射線科のいまどき情報

山田 恵子(駒24)

前号では紙面のスペースの都合上お休みしてしまいましたが、医学界のいまどき情報第2弾をお届けいたします!



がん研有明病院
超音波検査部・
画像診断部

高校を卒業して39年、仕事を始めて33年も経ってしまいました。今までずっと放射線科のなかの画像診断という、一般的にはあまり「お医者さん」らしくない分野で過ごしてきました。放射線科には画像診断部門と放射線治療部門があります。画像診断部門では単純X線撮影、CT、MRI、超音波検査(エコー)、核医学検査(PETを含む)、画像誘導下での局所治療(インターベンショナルラジオロジー:IVR)などを行い、放射線治療部門では放射線を使ったがん治療を行います。今年3月の原発事故の後にメディアに出られた放射線科医師はほとんどが放射線治療医で、放射線の人体への影響にもっとも詳しい方々です。私自身は、仕事を始めたばかりの頃に放射線治療や放射線物理を研修しましたが、それほど高い専門的知識を持っているわけではありません。それにしても、ある日突然だれもかれも「シーベルト」「ベクレル」と口にするようになっていこうとは、本当に驚きでした。

放射線科には日本医学放射線学会をはじめとする多数の関連学会がありますが、日本医学放射線学会のホームページ(HP) <http://www.radiology.jp/>には一般向け(市民の皆様へ)の情報やリンクが掲載されています。放射線に関して基礎的なことが知りたい場合には、リンク先の放射線医学総合研究所(放医研)で公開している放射線教育用アニメーションがおすすめです(http://www.nirs.go.jp/information/press/2011/11_16.shtml)。

また、日本保健物理学会「暮らしの放射線Q&A活動委員会」のサイトでは実用的な放射線情報が得られます(<http://radi-info.com/>)。

今回のことがあり、病院で受ける検査による医療被曝についても関心をもたれた方が多いことと思います。画像診断のなかで放射線を用いる場合には、個々の患者に対して「正当化」と「最適化」がなされていなければならないとされています。正当化とは放射線検査で被曝することによるリスクより、検査をして診断するという利益の方が大きいということで、通常検査を指示する医師と放射線専門医の責任のもとで判断されます。最適化とは被ばく線量の低減と画像情報の維持・向上を図らなければならないということで、目的に見合った画質レベルを得るための患者線量の管理が必要です。常識的な結論ではありますが、無駄な検査はいけませんが、病気の診断や治療に必要であれば、必要最小限の被曝は許容されるということになります。(<http://jrps-net.jp/guideline/>)

私自身は定年までもう少しとはなりましたが、こんな時代に遭遇したということで、働ける間は自分の専門を生かして何かの役に立ちたいと思っています。

(パソコンをお持ちでない方や操作できない方で情報を検索なさりたい方は、事務局へご連絡ください。)

東日本大震災・松桜会の絆

あの震災から一年以上が経ちました。徐々に復興の兆しは見えるもの、以前のような豊かな景勝地としての東日本が戻るにはまだ多くの時間と多くの人の助けや協力が必要です。

駒場松桜会として後記されているようにお見舞金などの活動をはじめ、同窓の集いや都駒祭での募金活動、松桜会コンサートをチャリティコンサートにして収益金の一部をお見舞金とするなどの活動をしております。(都駒祭・コンサートでの募金額は9,030円です。)

今後、さらに会員のみならずが独自に進めておられる活動のご紹介や、松桜会に取組んで欲しいこと、あるいは被災された方々への応援メッセージなども掲載して参りますのでどうぞ、駒場松桜会事務局まで、はがき、手紙、メールなどをお寄せいただけますますようお願いいたします。

会員の皆様のご協力について

松桜会会員の方々からのお見舞い金などの受付も随時行っております。(会費納入用紙もご利用いただけます。)

これからも引き続き駒場松桜会では一層のサポートをしてまいりますので、全国の会員相互の絆を強いものにしていく所存です。全国の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

駒場松桜会 アンケート結果について

昨年11月に、今後の駒場松桜会についてお聞きするアンケートを全会員の中から無作為に選んだ300名の方にお送りし、そのうち約70名から有効な回答をいただきました。その結果から概要をいくつか記しますと、
・会報は回答いただいた方全員がご覧になっているとのことでしたが、松桜会の東日本大震災への支援活動や、年一度1ページを使ってご報告している「収支報告」についてご存知無い方がおられました。

現在行っている「同窓の集い」「都駒祭」「松桜会講座」「松桜会コンサート」についての認知度は高いようですが、「駒場松桜会のホームページ」については3割程度の方にしか知られていないため利用も非常に少ないようです。

その他会費のことなども含め、今後の駒場松桜会の活動の参考となるご意見もいただきました。ご回答いただいた皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。
*アンケートの詳細につきましては駒場松桜会のホームページ(<http://www.komaba.or.jp/>)に掲載の予定です。

母校生徒の活躍(1月31日現在)

- バスケットボール部
 - ・東京都高校総体男女共にベスト16
 - 女子バレーボール部
 - ・東京都高校総体 ベスト9
- 体操競技部
 - ・インターハイ予選
 - 男子団体第2位 女子団体第5位
- 柔道部
 - ・国民体育大会柔道競技
 - 少年女子の部*東京都代表(中堅)として出場し、全国第5位
- 剣道部
 - ・東京都高校総体 男子個人ベスト16 男女団体 共にベスト32
- 陸上競技部
 - ・東京都高校新人陸上競技対校選手権大会 女子400m第3位 女子走高跳第4位(共に関東大会出場)
 - ・関東高校選抜新人陸上競技選手権大会 女子走高跳第8位入賞
- 水泳部
 - ・JOCジュニアオリンピック夏季大会 東京都予選(8名が全国大会出場決定)
- 百人一首部
 - ・全国高校小倉百人一首かるた選手権大会 個人戦A級第3位
 - ・全国高校総合文化祭小倉百人一首かるた部門 東京都チーム優勝(本校生徒1名が参加)
 - ・関東地区高校小倉百人一首かるた大会 東京都代表Aチーム優勝(本校生徒1名が参加)
- KHK(放送局)
 - ・東京都高等学校文化祭 放送部門 決勝大会朗読の部第7位
- 駒場フィルハーモニーオーケストラ部
 - ・全国高校総合文化祭 器楽・管弦楽部門出場決定(8月開催・富山県)

◆同期会のお知らせ◆

駒14同期有志の会(紫陽花会)
 初めの方、再度の方、大歓迎
 日時 6月30日(土) 12時
 会場 楽園菜館
 目黒区鷹番1-2-16
 03-3793-2277
 安中みな(2ホーム)
 03-3710-2877

駒16同期会
 日時 5月19日(土) 14時
 場所 渋谷エクセルホテル東急
 (渋谷駅構内。昨年と同じ場所です)

◆同期会の報告◆

駒5同期会
 昨年10月14日(土)、渋谷エクセルホテル東急で喜寿を祝う「第10回駒5の会総会」を開催いたしました。

会には恩師の先生方3名(渡部武先生、菱刈隆永先生、春成幸男先生)もご出席くださり、総勢109人が集い、楽しく和やかな総会となりました。58年前に母校を巣立ち今回の総会で10回目となりました。

喜寿ということで定期的開催はここで一区切りとし、今後は松桜会の各種行事に声を掛け合い参加していくことになりました。会は最後にお互いの今後の健闘を称え合って散会しました。

布村嘉久(駒5)

駒22還暦同期会
 昨年10月22日(土)、熱い思いの160名が帝国ホテル東京に集いました。受付幹事四名の制服姿に、参加者は一瞬にして40余年をワープ。若々しい会話が会場に飛び交いました。ご臨席の岩瀬・小川・山本・長野・菱刈・清水各先生よりのご訓示は、当時の情熱教室さながら。思い出のスライドショー放映に、会場は全員の歓声と涙で騒然。母校への感謝と、同期生の強い連帯感を共有したひとときでした。 井上芳木(駒22)

◆同期会での募金と残金を合わせ、34,648円を募金していただきました。有り難うございました。

駒33同期会
 昨年9月24日(日)帝国ホテルにて、卒業30年を祝した同期会を開催。一次会187名、二次会163名が参加。駒場で同じ時を過ごした仲間達が各々の30年を経て一同に会した会場では、旧知であろが無かるうが、一言話せばあの時の再来、興奮状態のまま大いに盛り上がり、皆、駒場の卒業生であることの誇りと友情を確認し合いました。

東田康志(駒33)

駒13同期会
 平成23年10月15日(土)市ヶ谷・私学会館アルカディアにて、卒業50周年同会会を開きました。

長野 東先生と96人の参加者で、50年前の写真を拡大コピーして持ち寄り、楽器演奏、歌などの披露もあり、楽しく懐かしいひと時を過ごしました。

横山輝子(旧姓伊藤)(駒13)

力をお願いいたします。 小島博明(駒17)

駒場松桜会は平成24年度から一般財団法人に移行されます

都立駒場高校の前身府立第三高女同窓会は、昭和15年に財団法人松桜会として設立されました。以来70余年さまざまな活動を展開してきましたが、平成20年の民法法人の新制度への移行措置により、平成25年までに駒場松桜会も一般財団法人に移行が義務づけられ、移行申請を行いました。2月27日に認可されました。

平成24年度から一般財団法人駒場松桜会としてスタートし、従来からの会報発行や名簿およびホームページを維持管理ほか、事業として実施している駒場高校生徒会への助成やコンサート、講演会、講座、仰光寮での美術展などを継承、今後はさらに駒場高校の生徒、卒業生、広く都民に生涯学習の機会などを提供していく所存です。

伝統ある同窓会としてこれからも充実した活動ができますよう、引き続きみなさまのご支援ご協力をお願いいたします。

掲示板

長い間活動してきた「合唱曲集を歌う会」が閉会されることになりました。

鈴木玲子(駒4)

松桜会講座のお知らせ(平成24年度上期)

4/13 締切

対象者：駒場松桜会会員・母校教職員・PTA会員

申込方法：往復はがきに、次の内容を記入してください。

- ①講座名 ②郵便番号・住所 ③電話番号 ④氏名
- ⑤会員一卒業年度 教職員一所属 PTA会員一お子様の氏名・学年・ホーム

☆返信はがきには宛先の住所・氏名を記入してください。1つの講座につき、1枚でお申込みください。

申込締切：4月13日(金) 申込先：〒153-0044 目黒区大橋2-18-1 都立駒場高校内 駒場松桜会事務局

A 講座

講師

安居 総子(駒4)

東京教育大学文学部漢文専攻卒。中学校教師35年の後、岐阜大学・大正大学教授。現在も国語教師の後進指導にあっている。

日本人と漢詩

日本人は中国から言葉を取りこみ、バイリテラシーの独特の文化をつくっていった。その中の漢詩を、古代、中世、江戸期、明治期に分けてお話したい。

定員：35名
受講料：2,500円
会場：東館 和室

10:30~12:00
5/12(土)・5/19(土)
6/2(土)・6/23(土)
7/14(土)

B 講座

講師

羽島 知之(駒6)

東洋大学卒。三栄広告社取締役、東洋大学理事、日本新聞博物館特別専門委員などを歴任。東洋文化新聞研究所代表。

新聞の魅力に迫る

第1回は教室で、かわら版・幕末明治からの新聞のあゆみが、実物の資料を手にしながら学べます。また、近年巨大地震の到来が予測される中、都市型の阪神淡路大震災と昨年の東日本大震災時における新聞報道の実際と新聞が果たした役割を検証します。

第2回は横浜に2000年秋にオープンした「日本新聞博物館」にご案内します。企画展は「一枚マンガの原発と新エネルギー展」、制作工房で「マイ新聞」づくりにも挑戦、館内見学のあとは横浜中華街で昼食をしながらのミーティングと懇親で楽しいひと時を…。第3回は朝日新聞社の最新の制作現場新聞社を見学します。

定員：25名
受講料：2,000円
会場：東館 和室
(第1回)

5/12(土) 13:30~15:00
5/23(水) 10:00
7/4(水) 10:00 予定

C 講座

講師

矢部 一(駒21)

地域総合型スポーツクラブ「ほんまちクラブ」代表。社団法人日本スポーツ吹き矢協会の公認指導員5段。

スポーツ吹き矢体験

スポーツ吹き矢とは、5mから10m先の的に重さ1gの吹き矢を吹いて、得点の多いほうが勝ちとなるスポーツです。最近テレビ等でも紹介されていますので、ご存じの方も多いと思います。「スポーツ吹き矢式呼吸法」は運動効果だけでなく、精神集中や血行促進、細胞の活性化にも役立ち、内蔵の諸器官にもよい影響を与えます。ゲーム感覚で楽しみながら、便秘解消、ストレス発散、食欲・健康を増進します。

定員：20名
受講料：2,000円
(他にマウスピース代630円)
会場：東館 和室

14:00~15:30
5/26(土)・6/9(土)
7/14(土)・7/21(土)

*松桜会講座では、講師を募集しています。講座の趣旨に適任の方々のご推挙を、事務局までお寄せください。

受講生の声

「This is アジアー国際協力の現場から」を受講して

2年前、勤務先の学校の掲示板でたまたま見つけた都駒祭のポスターがきっかけで、全国高校サッカーの観戦、同窓の集いへの参加、同期会の企画などを通して、「40年ぶりの都駒生」を楽しみ始めました。近年、私の住む新宿区大久保の町が韓流ブームで激変し、驚愕の思いでしたので、偏見を取り除いて地元理解に役立てよう、本講座を受講しました。

講師の吉田恒昭先生は、本校サッカークラブの主力選手として国体にも出場され、学生時代のインドシナ放浪記、社会基盤学としての河川工学を選んだ理由、アジア開発銀行職員として途上国の人々と共に汗を流した水道・電気・鉄道等のインフラ整備の話が聞かれました。

また、貧困・所得格差・開発協力…等の経済用語の説明やグラフ解説、ASEAN・APEC・ODA・JICA等の国際機構の中で日本が果たしてきた役割と課題、最近の「日中韓」の経済・文化の交流についても触れられ、地域を見直す良い機会となりました。

私は今後も先生に学びつつ、地元のNPO法人高麗博物館でボランティアを続けます。皆様もぜひ一度、「新大久保」で、「新しいアジアの勢い」を身近に感じていただけたらと思います。 福田 仁一(駒23)

駒場散策に参加して

全3回の講座の第1回目は「東大駒場キャンパスの探索」でした。

コンクリート造りのため、東京大空襲にも持ちこたえた一高時代の建物が多いキャンパスは、時計台のある現1号館を中心に落ち着いた雰囲気漂っていました。一高時代のマンホールや記念碑の数々、本郷から移植された古木のオリブの青い葉に興味を覚えました。第2回目の見所は「日本民芸館、ケルネルたんぼ」でした。ドイツ人で駒場農学校の教師だったケルネル先生の意向により開かれたたんぼが、近隣の学校の生徒によって今も大切に守られていることを初めて知りました。最終回は「母校周辺の史跡廻り」で、母校のある目黒区には貝塚や住居跡が多いことを知り、元目黒区住民だった私にとつては思いがけない発見!!となりました。お天気に恵まれ良く歩きました。沢山の資料を集め、優しくテキパキとご誘導くださったスタッフの皆様から心から感謝いたします。 岡村 祥枝(駒5)